

スポーツで交流深めよう。札幌大学が主催する。

札幌大 インドア雪合戦交流大会

冬期間の健康増進へ

小中学生ら160人が汗流す



第1回インドア雪合戦交流大会が1月31日、同大第1体育館で開かれた。豊平区内の小中学生や地域住民ら約160人が参加。大学

写真

同大は本年度、スポーツを通して大学や地域社会の活性化に寄与することを目的に、スポーツセンターを設立。教育目標「生氣に溢れ、知性豊かな、頼られる人材」の育成に向けて、課外活動を含めた人とのつながりや体験の積み重ねを通し

た人間力養成や部活動支援に努めている。

今回、運動機会が減少する冬期間の健康増進や、スポーツを通した大学と地域住民とのさらなる交流深化を目指して、初めてインドア雪合戦交流大会を企画。大会には、大学近郊で活動する少年野球チームや同

大学生、教職員で構成する延べ21チーム、161人が参加。小学校低学年の部および高学年の部、中学生以上の一般の部の3部門で優勝を目指して競い合った。

運営に当たり、同大運動部や教職課程を履修する学生約30人がサポート。競技の線審を務めるとともに、子どもたちに声をかけるなど、円滑な進行を支えた。

同大の坂有花さんと亀田英雄人さん(共に3年)は、教職を目指していると話し「正々堂々とプレーする子どもたちの素直さに感動した」。

「学生の時にレクリエーションの運営に携わったことで、子どもとの関わり

方へのイメージを膨らませることができた」などと笑顔を見せた。

スポーツセンターの岩本正姫センター長は「スポーツの企画・運営を学んでもらう良い機会。地域活性化とともに、学生の学びを広げることにつながれば」と期待した。